

本学の必修保健体育科目への学生ニーズについて

兵 頭 圭 介 (社会経済学科)
田 中 博 史 (英語学科)
中 間 和 男 (中国文学科)
大 橋 二 郎 (中国文学科)
秋 葉 盛 夫 (中国文学科)

Needs for physical education course in fresh-men and fresh-women of Daito-Bunka University

Keisuke Hyodo (Department of Socio-economics)
Hiroshi Tanaka (Department of English Language)
Kazuo Nakama (Department of Chinese Literature)
Jiro Ohashi (Department of Chinese Literature)
Morio Akiba (Department of Chinese Literature)

Abstract

Needs for physical education course of fresh-men and fresh-women of Daito-Bunka University were assessed by questionnaire method from year of 2002 to 2004.

At the selection of sports item (soccer, tennis, etc), over ninety percent of students can select sports item that they want to select. The majority of students showed high evaluation score to text for class, lecture for health education, such as dietary and prevention of sexually transmitted diseases.

はじめに

授業評価は大学教育における授業改善の一助として、日本では大学教育学会（旧一般教育学会）などのFD団体が1980年代から普及に努めてきた。当初は少数の大学で一部の教員が実施していたただけであったが、その後各大学に取り入れられて、2002年度では日本の国公立大学の84%で実施されている^{1),2)}。本学においても2000年度より学生による授業評価が全学規模で実施されている³⁾。大学の授業においても学生と教員の双方からの評価を行うことは、その方法等に改善の

余地はあるものの、授業改善の手段として有効に利用できる余地があることは論を待たないであろう。

ただ、こうした授業評価は、その授業を担当する個々の教員の資質にかかわる部分と、施設などの授業環境や、教員・授業コマの配置など、その科目の運営体制にかかわる部分を分けて分析しなければならない。特に後者の科目の運営態勢にかかわる部分に着いては個々の教員の努力だけではなく、科目運営にかかわるセクション全体の取り組みとして、学生がその科目に求めている内容や大学入学までにその科目について学生が予め得ている知識や技術等、いわゆるニーズやレディネスについて調査することが重要である。本学保健体育エリアでは1995年度より保健体育科目（総合体育）について、独自の学生による授業評価を実施しているが⁴⁾、2002（平成14）年度から2004（平成16）年度にかけて大学の新規事業として予算措置を受けて保健体育科目（総合体育）独自の科目（総合体育）ニーズ調査と満足度調査を行っている。今回はそのうち前期に実施した調査の結果を報告する。

対象と方法

2002（平成14）年度から2004（平成16）年度にかけて総合体育を受講した学生全員を対象とした。総合体育の年間スケジュールはどのクラス（種目）もほぼ同じで、その概要は図1のとおりである。調査は毎年6月と12月の合同授業時（6月はAIDS予防教育実施日、12月は体力テスト実施日）に実施し、授業時に学生にマークシート方式のアンケート用紙を配布、授業終了時に回収するという方法をとった。

対象となった総合体育受講生には再履修した過年度生が含まれるが、どの年度も全体の5%以下と少数であるのと、再履修の理由の殆どが出席不良であるため、調査時に総合体育についての予備知識や経験は新生とあまり差はないと思われたので、全体のデータに及ぼす影響は少ないと考えて集計に加えてある。

6月の調査に用いたアンケート用紙を図2に示す。調査項目は性別・学年・受講曜日・時限、履修している実技の種目の他、問1で今履修している種目が第一希望であったかどうか、問2で総合体育の授業で得た友人の数、問3として1回目の授業時に配布した保健体育ガイドブックへの評価、問4で1回目の授業で行なった栄養に関する講義への評価、問5で調査時に行なったAIDS予防に関する講義への評価を調査した。

問3で評価の対象にした保健体育ガイドブックは、総合体育での授業内容⁴⁾を考慮して、本学の保健体育のホームページのURLをはじめ、体育施設の場所を示す地図、体育教員のプロフィール、前期の授業で行われる講義内容をまとめたものを掲載し、履修の手助けになるように編集された。学生が携帯することを考慮して、A5サイズで50ページ程度になっている。総合体育がスタートした1995（平成7）年度に導入された教科書（「総合体育」：犀書房 改訂版の販売価格2400円）と比較すると、小型化・軽量化が図られ、内容も毎年更新し、学生への無料配布を実現

するなど、学生の利便性向上・経済的負担の軽減になっている。

データの集計はマークシートの記載内容をマークシートリーダー（セコニック社 SR-901。1994（平成6）年度大東文化大学特別研究費の補助により購入）にて電子データ化し、表計算ソフト（マイクロソフト社 EXCEL）にて集計を行った。

結果と考察

調査対象となった学生の人数は2002年調査で2981名、2003年、2004年でそれぞれ2840名、2542名であったこれはそれぞれの年度の総合体育に登録した学生の9割以上に当たる。

本学における必修の体育科目の履修システムは1997年度に大幅に改定されて⁴⁾現在に至っているが、1997年度以降も、種目配置の改善などの改定が行われた。具体的には①武道場を利用して卓球が常時実施できるようにしたこと、②ジャズダンス・水泳など受講希望者の比較的少ない種目はオープン種目として、学生が指定された受講曜日・時限にかかわらず（他の必修科目と重ならなければ）履修できるようにしたこと、③バドミントン・バスケットボール、バレーボールなど履修希望者の多い種目は学生の学科・クラスごとに指定された時間帯（月～金の2限または3限。学生の学科・クラスごとに指定される。たとえば国際文化学科のA組は月曜2限、など）以外の1限または4限にも開講し、自分が指定された曜日時限に当該種目が設置されていなかったり、当該種目が自分の指定された曜日時限に設置されている場合でも、受講希望者が定員を大幅に上回って抽選漏れなどで受講できなかった場合に対応できるようにしたこと、などである。

その結果、表1に示すように、自分が今履修している種目が第一希望のものであった者の割合は2000年度で51%、2001年度で69.3%であったものが⁵⁾、2002年度78.8%、2003年度78.3%、2004年度79.6%と大きく上昇している。

問2以降の回答分布は表2以降に示すとおりである。必修・自由選択をとわず体育実技科目は履修を通じて新しく友人を得ることが多いが^{4)・6)}、表2では、調査時期が総合体育の履修から1ヵ月半程度しか経ていないためか、まだ友人ができない（0人）、1～2人程度と回答したものが40%近い数字となっている（表2）。しかし1年間の授業を通じてこの状態は大幅に改善されることが確認されている⁴⁾。

保健体育ガイドブックは総合体育がスタートした1995（平成7年度に関する質問は2003年度・2004年度調査で行い、2002年度についてはデータがないが、「教員や体育施設についての情報がわかる」と答えた者が2003年度では全体の67.1%（2004年度：69.1%）、「役に立つ内容である」と答えた者が2003年度では72.8%（2004年度：75.6%）、「わかりやすい内容である」と答えた者が2003年度では62.3%（2004年度：75.6%）など、ガイドブックについて肯定的な評価をするものが、いずれの年度についても約7割程度を占めている。（問3。表3）

表4は第1回目の授業で学生各自が行う実技種目の選択（人数調整）を行った後の時間を利用して行われた栄養に関する講義（プレゼンテーションソフトとガイドブック使用）についての評

価で、「関心を持って聞くことができた」と答えた者が2003年度では74.9%（2004年度：84.1%）、「役に立つ内容であった」が2003年度では85.7%（2004年度：92.4%）、「新しい知識を得た」が2003年度では78.7%（2004年度：85.4%）であった。さまざまな事情により第一回目の授業を欠席したものが2004年度調査では1割程度いることがわかり、2004年度調査ではこの人数を補正して（母数から除く）計算しているため、%の値が少し高くなっている。大学に入学してから一人暮らしを始める学生が数多いことから、本学の総合体育の授業では、2002年度から総合体育の第1回目の授業で食生活に関するアドバイスを目的に栄養に関する講義を行っているが、学生の関心度、内容の有用性などについては満足すべき数値を得ているといえる。

表5は毎年6月に行っている性感染症（STD）予防教育の講義に関する評価である。栄養に関する講義と同様にプレゼンテーションソフトとガイドブック、ビデオなどの視聴覚教材を使って講義するもので、内容はAIDSをはじめとする性感染症の予防知識やSARSなどの新型感染症の予防知識に関するものである。「関心を持って聞くことができた」と答えた者が2002年度では85.3%（2003年度：79.3%、2004年度：78.0%）、「役に立つ内容であった」が、2002年度では87.7%（2003年度：80.4%、2004年度：79.1%）「新しい知識を得た」が2002年度では87.5%（2003年度：77.2%、2004年度：79.1%）であった。年度による数値の増減はあるが、この講義に関しても学生の関心度、内容の有用性などについて凡そ8割の学生は肯定的な評価をしており、ほぼ満足すべき数値を得ているといえる。

今回の調査結果から見る限りにおいては、本学の1年次生を対象にした必修の保健体育科目（総合体育）の前期の教授内容は、受講生にとって、健康管理上必要な知識の習得、交友関係の深化・ひろがりを伴う精神衛生面での効用など、学生のニーズを満足できる程度に充足していることが伺われた。後期の教授内容についての評価結果については後日報告の予定である。

謝辞

この稿を終えるにあたり、調査にご協力いただいた2002～2004年度に総合体育を受講した学生の皆様、調査用マークシートの配布・回収にご協力いただいた大東文化大学保健体育エリア部会の専任教員・非常勤講師の皆様と大東文化大学東松山教務事務室の皆様、ならびに調査用マークシートの作成・印刷にご協力いただいた株式会社岡田商事オスコム事業部の皆様に心より感謝申し上げます。

参考文献

- 1) 学生による授業評価と大学教育（大東文化大学授業評価報告書Ⅰ）pp1,大東文化大学,2004年,
- 2) 大学における教育内容等の改革状況について（文部科学省報道発表。2004年3月23日）
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/16/03/04032301.htm
- 3) 学生の評価と体力診断テストからみた本学の保健体躯カリキュラム改革の評価について。大東文化大学紀要.

社会科学（通号36）1998, 135-142

4) 本学新入生の体育実技科目へのニーズと評価についての一考察。大東文化大学紀要, 社会科学（通号37）1999, 91-97

5) 兵頭他 未発表資料。

6) 本学における自由選択体育実技科目の履修動機についての検討。大東文化大学紀要, 社会科学（通号40）2002, 215-219

図1 総合体育の年間スケジュール

前期 (4月～7月)

曜日・時限ごとに各クラス(種目)合同で、

4月上旬：1回目の授業を行ない、実技種目の決定と栄養の講義(ガイドブック配布)

5月連休明け：体力診断テスト

6月上旬：AIDS他性感染症予防の学習

を行ない、それ以外の週は各種目ごとに実技または講義(講義は各種目ごとに四回程度)。

後期 (9月～翌年1月)

曜日・時限ごとに各クラス(種目)合同で、

12月上旬：体力診断テスト

を行なう他は実技を行なう。

図2 調査用マークシート(2004年6月に使用したもの)

2004.5.

学年	受講曜日	時限	現在の種目
①	(月)		(サッカー)
②	(火)	①	(バドミントン)
③	(水)	②	(基礎トレ)
④	(木)	③	(ソフトボール)
	(金)	④	(テニス)
	(土)	⑤	(卓球)
			(バスケットボール)
			(ソフトテニス)
			(ジャズダンス)
			(バレーボール)
			(水泳)
			(柔道)
			(軟式野球)
			(ウォーキング)
			(エアロビクス)

性別	(男)	(女)
----	-----	-----

↑
記入もれのないように注意すること

ボールペン不可
(記入例)
良い ●
悪い ●●●●

総合体育に関するアンケート

問1 履修している種目について一ヶ所をマークしてください。
 (第1希望の種目であった) (第2希望の種目であった)
 (あまり履修したくない種目であった) (履修したくない種目であった)

問2 総合体育を通じてできた友人の数について一ヶ所マークしてください。
 ①人 ②～2人 ③～4人 ④～6人 ⑤7人以上

問3 初回の授業のときに配布された保健体育ガイドブックについて当てはまるものをマークしてください。
 体育施設の場所や教員について十分に説明してある。 ()はい ()いいえ ()どちらでもない
 健康やスポーツに関して役に立つ内容である。 ()はい ()いいえ ()どちらでもない
 わかりやすいように書かれている。 ()はい ()いいえ ()どちらでもない

問4 初回授業の栄養の講義について、該当するものをマークしてください。
 出席した。 ()はい ()いいえ ()いいえをマークした場合は問5へ
 関心を持って聞くことができた。 ()はい ()いいえ
 健康管理上役に立つ内容であった。 ()はい ()いいえ
 新しい知識を得ることができた。 ()はい ()いいえ

以下の項目はこの授業の終わりに記入してください。←

問5 今日の講義内容について、該当するものをマークしてください。
 関心を持って聞くことができた。 ()はい ()いいえ
 健康管理上役に立つ内容であった。 ()はい ()いいえ
 新しい知識を得ることができた。 ()はい ()いいえ

大東文化大学

その他総合体育について意見や要望があれば裏面に自由に書いてください。ご協力有難うございました。

表1 第一希望に登録できた学生の割合 (%)

第一希望の割合の年次推移 (%)

年 度	2000	2002	2003	2004
%	51.0	78.8	78.3	79.6

表2 授業を通じて得た友人の数

2002年データ

	0人	1～2人	3～4人	5～6人	7人以上	無回答
計	391	860	933	403	357	37
	13.1%	28.8%	31.3%	13.5%	12.0%	

2003年データ

	0人	1～2人	3～4人	5～6人	7人以上	無回答
計	379	730	926	395	381	29
	13.3%	25.7%	32.6%	13.9%	13.4%	

2004年データ

	0人	1～2人	3～4人	5～6人	7人以上	無回答
計	302	704	885	348	262	37
	11.9%	27.7%	34.8%	13.7%	10.3%	

表3 保健体育ガイドブックへの評価

2003年データ

教員や場所の情報が十分

YES	NO	どちらでもない	無回答
1905	141	741	33
67.1%	5.0%	26.1%	1.2%

役に立つ内容である

YES	NO	どちらでもない	無回答
2067	97	637	39
72.8%	3.4%	22.4%	1.4%

わかりやすい内容である

YES	NO	どちらでもない	無回答
1768	161	869	42
62.3%	5.7%	30.6%	1.5%

2004年データ

教員や場所の情報が十分

YES	NO	どちらでもない	無回答
1773	135	589	45
69.7%	5.3%	23.2%	1.8%

役に立つ内容である

YES	NO	どちらでもない	無回答
1921	73	497	51
75.6%	2.9%	19.6%	2.0%

わかりやすい内容である

YES	NO	どちらでもない	無回答
1696	113	679	54
66.7%	4.4%	26.7%	2.1%

表4 初回の講義（栄養関連）への評価

関心を持って聞くことができた

2002年データ

YES	NO	無回答
2134	675	172
71.6%	22.6%	5.8%

2003年データ

YES	NO	無回答
2128	568	144
74.9%	20.0%	5.1%

2004年データ

YES	NO	無回答
2019	386	137
84.1%	16.1%	5.7%

健康管理上役に立った

2002年データ

YES	NO	無回答
2479	328	174
83.2%	11.0%	5.8%

2003年データ

YES	NO	無回答
2433	264	143
85.7%	9.3%	5.0%

2004年データ

YES	NO	無回答
2218	187	137
92.4%	7.8%	5.7%

新しい知識を得た

2002年データ

YES	NO	無回答
2287	513	181
76.7%	17.2%	6.1%

2003年データ

YES	NO	無回答
2234	458	148
78.7%	16.1%	5.2%

2004年データ

YES	NO	無回答
2050	352	140
84.1%	14.7%	5.8%

表5 STD予防の講義への評価

関心を持って聞くことができた

2002年データ

YES	NO	無回答
2544	270	167
85.3%	9.1%	5.6%

2003年データ

YES	NO	無回答
2252	192	396
79.3%	6.8%	13.9%

2004年データ

YES	NO	無回答
1983	150	409
78.0%	5.9%	16.1%

健康管理上役に立った

2002年データ

YES	NO	無回答
2614	190	177
87.7%	6.4%	5.9%

2003年データ

YES	NO	無回答
2282	156	402
80.4%	5.5%	14.2%

2004年データ

YES	NO	無回答
2011	118	413
79.1%	4.6%	16.2%

新しい知識を得た

2002年データ

YES	NO	無回答
2607	195	179
87.5%	6.5%	6.0%

2003年データ

YES	NO	無回答
2193	248	399
77.2%	8.7%	14.0%

2004年データ

YES	NO	無回答
1871	256	415
79.1%	4.6%	16.2%